

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100027		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホームすずらん 1号館		
所在地	砂川市空知太西1条3丁目3番12号		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	令和7年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0197100027-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○敷地内に同じグループホームが隣接しているので、職員の協力体制ができています。また二つの建物の間に中庭があり、花や野菜を育てている。散歩や日光浴をしながら花を鑑賞したり、野菜を収穫し、料理で提供している。

○1年を通して入居者様に季節を感じていただけるよう、感染対策を行いながら花見や紅葉ドライブ、リンゴ狩りなどの外出行事や出張握りのお寿司で食事会や花火大会、クリスマス会、ひな祭り会等を施設内でも気分転換でき四季を感じられるよう工夫している。今年の夏祭りでは数年ぶりに家族様にも参加していただけた。

○医療面では近くの協力医の往診を2週に1回受けており、グループホームの看護師と24時間体制で連携が取れるようになっている。入居者様の急変、異常時にも対応できるなど安心して生活が送れる。

今年度より歯科医による年2回の検診や毎月の技術指導、治療が必要時には往診にて治療ができる体制となっている。

また、AEDの設置、熱中症対策で共同部にエアコンを設置している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームすずらんは」最寄りのバス停から徒歩5分ほどの自然環境に恵まれた住宅街に立地している。平屋建て2ユニットの事業所は玄関ホールと事務所を挟んで各ユニットが分かれ、系列のグループホームと共有している広い中庭はそれぞれのユニットから花壇や畑の作物の成長が楽しめる。室内は床暖房で均一に暖かく、清潔に保たれ快適に過ごせる環境である。看護職員による日々の健康管理と、市立病院との「電子カルテ情報共有サービス」を活用した病院の医療情報を相互に共有し的確な治療へとつなげている。運営理念のほかに毎月の目標を掲げ、職員間の連携を図り支援に努めている。また身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を毎月開催し、全職員で情報を共有し、拘束のないケアに取り組んでいる。ケアマネジメントは独自のアセスメントシートを作成し、趣味や嗜好、暮らしの様子を詳細に記載し、全職員で評価を行い、計画に基づいた支援を行っている。食事は職員手作りで利用者のリクエストに応え、利用者と収穫した畑の作物も利用し、家庭的な調理の音や香りが食事への期待を高め、楽しいものとなっている。季節の装飾がされた明るく光が差し込む談話スペースでは職員と利用者の和やかな会話が聞こえてくる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念には名札、休憩室、事務所に掲示記載しており、常に確認できるようになっている。職員は理念に沿って目標を立て、実践できるよう努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念は事務所や休憩室に掲示し、名札の裏面にも記載し常に意識できるようにしている。また、毎月の目標を職員で決め、支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策により町内会の参加は中止となっている。避難訓練、夏祭りでの交流も中止しているが、運営推進委員会にて状況を説明している。また、職員はRUN伴に参加している。AED設置し地域の方も活用できるよう周知している。	町内会に所属し、回覧板や運営推進会議に参加の町内会関係者より地域の情報を得ている。利用者と散歩時には挨拶を交し、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	砂川市の看護学生の実習を受けていたが、感染予防対策、学校側の実習変更により、現在は受け入れを中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催し、施設の近況報告や行事、研修の報告を行い、意見交換や助言をいただき、運営に活かしている。会議議事録を家族に郵送し会議内容を報告している。	定期的に運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、町内会役員、代表家族が参加し、活動報告等を行い、質疑応答が交わされている。	運営推進会議議事録の送付時に、次回の運営推進会議開催の案内とともに会議のテーマを記載し、参加できない家族意見の収集に努めることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長、管理者は日頃から市役所の福祉課、介護保険課と連絡を取り事業所の報告や相談を行っている。運営推進委員会には町内会の民生委員の方も参加していただいている。	各種報告等は施設長と管理者が行っている。困難事例に対し今後の対応策を相談するなど、協力体制が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯上施錠を行っているが、日中は無断外出防止の為、施錠している。居室窓から出る事例もあり、安全を確保できるよう見守り、声掛けの強化実施。外への散歩、日光浴など行えるよう支援している。身体拘束せず入居者が安全に生活が送れるよう、身体拘束の研修、会議や申し送り時に職員間で話し合い支援に繋げていけるよう取り組んでいる。	指針を整備し、身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を毎月開催している。委員会の議事録は職員に配布し周知している。研修も年2回行っている。今後は議事録に身体拘束等該当なしの報告を表記し、書類の整備を行っていく予定である。玄関は防犯上日中常も施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての疑問がある時は、職員同士話し合ったり、施設長、管理者と相談しながら虐待防止に努めている。定期的に研修や身体拘束委員会を行う事で職員の意識を深められるよう努めている。		

グループホーム すずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	回覧される書類や内部研修にて学ぶ機会をもち権利擁護に関する制度について少しずつ理解を深めている。日常生活自立支援事業については今後研修等で学べるよう検討する。施設長、管理者は個々の必要性を把握し、制度が必要な場合に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や施設見学の際に入居までの流れや施設での生活について説明している。その際、入居者や家族の不安や疑問点にも十分説明を行うよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関にご意見シートと返信用封筒が設置されており、いつでも意見、要望を出すことができるようになっている。家族の面会時、ケアプラン説明時などの機会に要望や意見を聞き対応できるよう努めている。	利用者の意見や意向は日常の支援の中で聞き取っている。年4回「すずらん新聞」を発行し、運営推進会議議事録の送付、介護計画の送付時に便りも添え、電話連絡時や面会時に聞き取っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者は職員会議、日々の勤務の中で職員の意見や提案を話せる機会を設け業務に反映している。希望時、定期的に個別面談も実施している。	全体会議やユニット会議など、日常でも職員の意見や提案を聞いている。希望休の取得も可能で、休憩場所も整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者は勤務状況や個々の意欲など把握するよう努めている。業務の負担軽減を図れるよう勤務希望をできる限り可能にしたり、業務の変更を行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修やZOOMでの研修に参加している。一人ひとりの力量を把握し、施設長、管理者は研修内容を提供できるよう務めている。内部研修では職員に課題を提供し職員が調べ発表し学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で同業者と交流する機会がある。今年度から外部研修に参加し、ZOOMや研修時に他施設での取り組みを確認し、サービスの質が低下しないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集をし、入居時からスムーズに支援ができるよう努めている。また本人の話しに耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて、家族等が困っていること、不安や要望を聞き、入居後も家族の面会時に施設での様子を伝え、必要な時には協力を依頼し家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービスの担当者や家族からの情報をもとに、その時必要な支援を見極め支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事や掃除等、個々の得意な事、できる事が続けられるよう、職員は声掛け、見守りを行っている。できることを見極め、一緒に行えるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には年4回の新聞にて個々の近況や面会時に日頃の様子を伝えている。外出、受診、買い物など協力が可能な事は依頼し、共に支えていくよう努めている。家族には感染予防への協力をいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り生活習慣の継続を大切にし、家族の協力により、お墓参りや選挙などに出席したり、知人の面会など関係が途切れないよう支援に努めている。	職員は馴染みの関係を把握し、友人や知人の面会や電話の取り次ぎ支援も行っている。自宅で猫を飼っていた方の「猫が見たい」の声に近隣のペットコーナーに猫を見学に行く支援も行った。訪問理美容師も馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のリハビリ体操、レクリエーション、食事の支援などを通し、他入居者と関わり合えるよう支援している。孤立しがちな入居者には職員が間に入りコミュニケーションが図れるよう話題の提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者、看護師は転居先の関係者へ情報提供を行い、最善のサービスが継続できるよう努めている。また退去後も家族と連絡を取り合うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情から本人の希望や意向を把握し支援について日々検討している。また、職員間で情報を共有し支援している。	全利用者は自分の思いを会話の中で伝えることができる。聞き取った情報は利用者ノートや日誌に記載し情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を収集し、職員は生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、一人ひとりの個性や生活環境を考え支援するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、記録を通して職員は情報を共有している。体調の変化がある時は、看護師に相談しその都度対応を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、介護計画に反映できるよう努めている。定期的なモニタリングを行い支援について検討し状況に即した計画を作成している。	全職員でモニタリングや評価を行い、計画作成担当者が意見を集約しプランを作成している。本人の意向と家族の意向を聞き取りケアプランに反映させ、6か月ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を記録し、申し送りや連絡ノート等で職員は情報を共有し、気づきや支援の実践に繋げ介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、買い物代行や受診のサポートを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	受診の付き添いにボランティアを活用したり、2か月に1回美容室が来設し、カット、パーマ、毛染めを個々の希望で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度協力医による往診があり、状況や希望に応じて、他のかかりつけ医への受診を家族と協力し安心した医療が受けられるよう、支援している。また今年度より年2回、歯科医による検診や毎月の技術指導、治療が必要時の往診を行っている。	月2回の協力医の往診があり、看護職員による健康管理が行われている。「電子カルテ情報共有サービス」で利用者の状態の報告と受診内容等の医療情報がオンライン上で確認でき、適切な医療へとつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は事業所の携帯電話を持ち、入居者の体調変化があった際、看護師と24時間連絡が取れ、相談、指示を受け対応している。また必要に応じて受診等を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師、管理者は入院時に入居者の情報を病院に提供している。また、退院に向けての話し合いを面談、電話連絡などを密に行い、退院後の支援に繋がるよう関係づくりをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項説明書の説明を行っている。また重度化した場合の対応方法を家族、協力医、看護師、施設長、管理者と話し合い、施設でできる範囲の支援を行っている。	入居時に「「重度化した場合における対応に係る指針」にそって説明を行っている。医療行為等が必要になった場合は、医師と家族、事業所で方針を話し合い、可能な限り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルがあり、常に確認できる場所に設置している。AEDを設置している。救急救命講習は感染予防対策の関係で立会できず、内部研修などで研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定避難訓練を行い、安全に入居者が避難できる方法を学んでいる。災害時に必要な食糧等は定期的にチェックし備えている。緊急連絡簿は事業所から近い順番となっていて、すぐ駆けつけられるようになっている。	防災設備会社の協力を得て年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。備蓄品も確保し、隣接する法人企業の協力も得られている。	地震避難訓練のほか、ハザードマップ上で想定された自然災害についても対応できるよう、机上訓練も行うことを期待したい。また救命救急訓練も行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロック、不適切ケアについて学び、一人ひとりの人格を把握し、その方に合った声掛けや対応を心掛けている。入浴や排泄等もプライバシーに配慮した対応に努めている。	接遇研修を実施している。「さん」づけを基本に、家族の同意を得て本人が希望する呼び方をすることもある。申し送りはイニシャルや部屋番号で行い、記録類は適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人のペースに合わせた生活が送れるよう、希望を尊重した支援に努めている。また、自己決定が難しい方には本人のニーズに近いものを職員が考え選択し提案することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間等、本人の望む生活習慣や体調に合わせた対応を行い、本人の意向、生活ペースを大切に支援している。排泄面では、排泄パターンを把握し誘導、介助を行っている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立した入居者には本人の意思に任せているが、季節に合わせた服装になるよう声掛けを行っている。介助が必要な方には、本人の好みや天候に合わせ職員が支援している。		

グループホーム すずらん

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者との会話にて食べたい物を尋ねたり、メニューに偏りがないようにパン食、麺の日等を設け食事を楽しめるよう努めている。	食材を見ながら職員が献立を考え、誕生日は本人の好きな生チラシなどにしている。利用者は野菜の下拵えや片付けを手伝っている。畑で収穫した野菜が食卓に上がることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌にメニューを記載し一人ひとり食事の残量を記入することで好みを把握している。焦点情報記録用紙にて1日の水分量を把握し不足している場合には声掛けを行ったり好きな物に変えたりするなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に一人ひとりに声掛けを行っている。支援が必要な方には介助にて口腔ケアを行い清潔が保てるようにしている。就寝前には義歯洗浄剤にて消毒を行っている。また今年度から歯科医による定期検診、毎月の職員への技術指導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に応じた排泄の支援を行っている。また、プライバシーに配慮し必要以上に介助を行わず、排泄の自立に向けた支援を行うよう努めている。	自立している方が多く、昼夜ともほとんどトイレで排泄している。本人の状況を見て声かけしたり、夜間のみポータブルトイレを使用することもある。適切な声かけや誘導で排泄面が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供しているが苦手な方には別の飲み物を提供している。食事では乳製品や食物繊維を取り入れている。また、チェック表にて排泄パターンを把握し看護師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、本人の体調をみながら支援している。入浴方法やお湯の温度は可能な限り本人の意向に合わせて支援している。また、同性介助を希望する方には同性での介助支援を行っている。	日曜日を予備日とし、午後の時間帯で週2回の入浴を支援している。利用者の希望に応じて入浴日を決めたり、シャワー浴、見守りでの入浴など各利用者が楽しく入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力、体調に合わせて日中にも短時間の休息ができるよう支援している。また不眠にならないよう日中の活動にも配慮し支援している。本人の状態によっては看護師に相談し眠剤を服用するなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関連については連絡帳に個別に分けた情報があり、常に確認できるようになっている。薬の変更時は看護師による申し送り、連絡帳で共有、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の体力、能力に応じて、できることを依頼し見守りしながら行ってもらっている。また、行事等を通して気分転換できるよう支援している。		

グループホーム すずらん

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場には外へ散歩、畑作業、日光浴を行っている。行事として近くのお店へ食事に出掛けたり、お花見や紅葉ドライブ、リンゴ狩りへ出掛け気分転換できるよう支援している。また短時間ではあるが外出機会を設けている。	普段は車椅子利用の方も一緒に事業所周辺を散歩したり、敷地内の花壇や畑を見ながら外気浴をしている。滝川方面に花見に出かけたり、秋には数人ずつ赤平や歌志内方面で紅葉を楽しんでいる。家族とドライブや外出に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば少額を所持していただいている。希望があれば家族、職員が買い物代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で可能な範囲で電話を掛けている。入居者によっては個人の携帯を持っている方もいる。手紙が必要に応じて代読して対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔を心掛け、室温、湿度に気を配り過ごしやすいう配慮している。今年からエアコンが設置され、熱中症対策を行っている。食事は席を決め、混乱やトラブルがないよう努めている。フロアは季節が感じられるよう掲示物や行事の写真などを掲示し楽しめるよう工夫している。	居間の大きな窓から、広々とした中庭や畑を見渡すことができる。食堂スペースも独立しており、開放感あふれる間取りになっている。利用者と一緒に制作した装飾やクリスマスツリー、観葉植物もあり、家庭的な雰囲気の中で落ち着いて過ごせる環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置き、テレビや新聞を読んだり、好きな時間、場所で入居者同士や一人で過ごせるよう工夫している。また玄関スペースで両ユニットの入居者同士が集まり、会話を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の生活をできるだけ継続できるよう使い慣れた家具や家族の写真、仏壇等を持ち込んだり好みに応じて絨毯を敷いたり、身体の状態変化から家具のレイアウトや危険箇所がないか確認するなどし過ごししやすい空間づくりに努めている。	クローゼットが備え付けられている居室にベッドや使い慣れたタンス、テレビなどを持ち込んでいる。出窓に観葉植物を置いたり、自分の作品やプレゼントのメダル、写真などを飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室の入口に表札があり、トイレや浴室、洗濯室には目印があり、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。歩行器や車椅子を能力に応じて使用し、安全に移動できるよう見守り等の支援をしている。必要箇所には手摺りを付け工夫している。		

グループホーム すずらん
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100027		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホームすずらん 2号館		
所在地	砂川市空知太西1条3丁目3番12号		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	令和7年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0197100027-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○敷地内に同じグループホームが隣接しているので、職員の協力体制ができています。また二つの建物の間に中庭があり、花や野菜を育てている。散歩や日光浴をしながら花を鑑賞したり、野菜を収穫し、料理で提供している。

○1年を通して入居者様に季節を感じていただけるよう、感染対策を行いながら花見や紅葉ドライブ、リンゴ狩りなどの外出行事や出張にぎりのお寿司で食事会や花火大会、クリスマス会、ひな祭り会等を施設内でも気分転換でき四季を感じられるよう工夫している。今年の夏祭りでは数年ぶりに家族様にも参加していただけた。

○医療面では近くの協力医の往診を2週に1回受けており、グループホームの看護師と24時間体制で連携が取れるようになっている。入居者様の急変、異常時にも対応できるなど安心して生活が送れる。

今年度より歯科医による年2回の検診や毎月の技術指導、治療が必要時には往診にて治療ができる体制となっている。

またAEDの設置、熱中症対策で共同部にエアコンを設置している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は名札、休憩室、事務所に提示記載しており、常に確認できるようになっている。職員は理念に沿って目標を立て、実践できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策により町内会の参加は中止となっている。避難訓練、夏祭りでの交流も中止しているが、運営推進委員会にて状況を説明している。また、職員はRUN伴に参加している。AED設置し地域の方も活用できるよう周知している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	砂川市の看護学生の実習を受けていたが、感染予防対策、学校側の実習変更により、現在は受け入れを中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回会議を開催し、施設の近況報告や行事、研修の報告を行い、意見交換や助言をいただき、運営に活かしている。会議議事録を家族に郵送し会議内容を報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長、管理者は日頃から市役所の福祉課、介護保険課と連絡を取り事業所の報告や相談を行っている。運営推進委員会には町内会の民生委員の方も参加していただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯上施錠を行っているが、日中は無断外出防止の為、施錠している。居室窓から出る事例もあり、安全を確保できるよう見守り、声掛けの強化実施。外へ散歩、日光浴など行えるよう支援している。身体拘束せず入居者が安全に生活が送れるよう、身体拘束の研修、会議や申し送り時に職員間で話し合い支援に繋げていけるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての疑問がある時は、職員同士話し合ったり、施設長、管理者と相談しながら虐待防止に努めている。定期的に研修や身体拘束委員会を行う事で職員の意識を深められるよう努めている。		

グループホーム すずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	回覧される書類や内部研修にて学ぶ機会をもち権利擁護に関する制度について少しずつ理解を深めている。日常生活自立支援事業については今後研修等で学べるよう検討する。施設長、管理者は個々の必要性を把握し、制度が必要な場合に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や施設見学の際に入居までの流れや施設での生活について説明している。その際、入居者や家族の不安や疑問点にも十分説明を行うよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関にご意見シートと返信用封筒が設置されており、いつでも意見、要望を出すことができるようになっている。家族の面会時、ケアプラン説明時などの機会に要望や意見を聞き対応できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者は職員会議、日々の勤務の中で職員の意見や提案を話せる機会を設け業務に反映している。希望時、定期的に個別面談も実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者は勤務状況や個々の意欲など把握するよう努めている。業務の負担軽減を図れるよう勤務希望をできる限り可能にしたり、業務の変更を行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修やZOOMでの研修に参加している。一人ひとりの力量を把握し、施設長、管理者は研修内容を提供できるよう努めている。内部研修では職員に課題を提供し職員が調べ発表し学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で同業者と交流する機会がある。今年度から外部研修に参加し、ZOOMや研修時に他施設での取り組みを確認し、サービスの質が低下しないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集をし、入居時からスムーズに支援ができるよう努めている。また本人の話しに耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて、家族等が困っていること、不安や要望を聞き、入居後も家族の面会時に施設での様子を伝え、必要な時には協力を依頼し家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービスの担当者や家族からの情報もとに、その時必要な支援を見極め支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に台所仕事や掃除、軽作業等、個々の得意なことが続けられるよう、職員はコミュニケーション、できる事を大切に、意欲が低下しないよう関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には年4回の新聞にて個々の近況や面会時に日頃の様子を伝えている。外出、外泊や受診、買い物など協力が可能な事は依頼し、共に支えていくよう努めている。家族には感染予防への協力をいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り生活習慣の継続を大切に、家族の協力により、お墓参りや選挙、外泊などに出掛けたり、知人の面会など関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のリハビリ体操、レクリエーション、食事の支援などを通し、他入居者と関わり合えるよう支援している。孤立しがちな入居者には職員が間に入りコミュニケーションが図れるよう話題の提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者、看護師は転居先の関係者へ情報提供を行い、最善のサービスが継続できるよう努めている。また退去後も家族と連絡を取り合うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情から本人の希望や意向を把握し支援について日々検討している。また、職員間で情報を共有し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を収集し、職員は生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、一人ひとりの個性や生活環境を考え支援するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、記録を通して職員は情報を共有している。体調の変化がある時は、看護師に相談しその都度対応を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、介護計画に反映できるよう努めている。定期的なモニタリングを行い支援について検討し状況に即した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を記録し、申し送りや連絡ノート等で職員は情報を共有し、気づきや支援の実践に繋げ介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、買い物代行や受診のサポートを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	受診の付き添いにボランティアを活用したり、2か月に1回美容室が来設し、カット、パーマ、毛染めを個々の希望で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度協力医による往診があり、状況や希望に応じて、他のかかりつけ医への受診を家族と協力し安心した医療が受けられるよう、支援している。また今年度より年2回、歯科医による検診や毎月の技術指導、治療が必要時の往診を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は事業所の携帯電話を持ち、入居者の体調変化があった際、看護師と24時間連絡が取れ、相談、指示を受け対応している。また必要に応じて受診等を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師、管理者は入院時に入居者の情報を病院に提供している。また、退院に向けての話し合いを面談、電話連絡などを密に行い、退院後の支援に繋がるよう関係づくりをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項説明書の説明を行っている。また重度化した場合の対応方法を家族、協力医、看護師、施設長、管理者と話し合い、施設でできる範囲の支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルがあり、常に確認できる場所に設置している。AEDを設置している。救急救命講習は感染予防対策の関係で立会できず、内部研修などで研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定避難訓練を行い、安全に入居者が避難できる方法を学んでいる。災害時に必要な食糧等は定期的にチェックし備えている。緊急連絡簿は事業所から近い順番となっていて、すぐに駆けつけられるようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロック、不適切ケアについて学び、一人ひとりの人格を把握し、その方に合った声掛けや対応を心掛けている。入浴や排泄等もプライバシーに配慮した対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で入居者の思い、希望が表出る声掛けの工夫や雰囲気作り心掛けています。自己決定が難しい方には、本人のニーズに近いものを提案することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間等、本人の望む生活習慣や体調に合わせた対応を行い、本人の意向、生活ペースを大切に支援している。排泄面では、排泄パターンを把握し誘導、介助を行っている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方は、起床時や外出時に本人の体調、気温に合った服装を本人が選択し着替えたり、助言をしている。自己判断が難しい方は、状況に合わせ職員が選び対応している。		

グループホーム すずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支援や片付けが楽しく参加できるよう、できる力や体調に応じて職員と一緒にやっている。献立は好みや体調に合わせ提供できるよう工夫している。また会話から食べたい物を尋ねたり、メニューに偏りがないようにパン食、麺の日等設け食事を楽しめるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌にメニューを記載し、一人ひとり食事の残量を記入し好みを把握している。焦点情報記録用紙にて1日の水分量を把握し不足している場合、声掛けを行ったり、好みの飲み物を提供し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後声掛けにて行っている。自力で行えない方は介助にて清潔に保てるよう支援している。定期的に義歯洗浄剤を使い汚れや臭いを予防している。歯科医による定期検診、毎月の職員への技術指導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に応じた排泄支援を行っている。介助が必要な方は排泄パターンを把握し、誘導を行い、自立に向け支援している。必要に応じてパッドの有無を検討し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳やコーヒーや好みの飲み物を提供している。水分は1日1200ccを目標にし、食事での乳製品、食物繊維を取り入れている。チェック表にて排泄パターンを把握し、看護師に下剤等の相談をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴できるよう、受診や外出、体調に応じて入浴している。個々の好みの温度や時間にも配慮し支援している。また一人で入浴を希望する方は、安全に入浴ができるよう見守り、声掛けを行い、支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや体調に合わせて日中は短時間の休息を取っていただく時もある。夜間良眠していただけるよう、日中様々な活動に参加していただく、看護師に相談し眠剤を内服するなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関連については連絡帳に個別に分けた情報があり、常に確認できるようになっている。薬の変更時は看護師による申し送り、連絡帳で共有、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、役割や楽しみ、新たな習慣を持てるよう検討し、実践に努めている。また行事や天気の良い日は外へ出て気分転換できるよう支援している。		

グループホーム すずらん

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場には外へ散歩、中庭で畑作業など行っている。入居者の希望に応じて、職員と一緒に買い物に出掛けたり、行事として近くのお店へ食事に出掛けたり、花見や紅葉ドライブ、リンゴ狩りへ出掛け気分転換できるよう支援している。また短時間ではあるが外出機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば少額を所持していただいている。希望があれば買い物代行を行うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で可能な範囲で電話を掛けている。入居者によっては個人の携帯を持っている方もいる。届いた家族からの手紙は本人に渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔を心掛け、室温、湿度に気を配り過ごしやすいよう配慮している。今年からエアコンが設置され、熱中症対策を行っている。食事は席を決め、混乱やトラブルがないよう努めている。フロアは季節が感じられるよう掲示物や行事の写真などを掲示し楽しめるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置き、テレビや新聞を読んだり、1人でくつろいだり、他入居者と会話を楽しんで自由に共有スペースを利用している。また玄関スペースで両ユニットの入居者同士が集まり、会話を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の生活をできるだけ継続できるよう使い慣れた家具や写真、仏壇等を持ち込んだり、好みに応じて絨毯を敷いたり、身体の状態変化から家具のレイアウト、危険個所がないか確認するなどし過ごしやすい空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室の入口に表札があり、トイレや浴室、洗濯室には目印があり、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。歩行器や車椅子を能力に応じて使用し、安全に移動できるよう見守り等の支援をしている。必要箇所には手摺りを付け工夫している。		